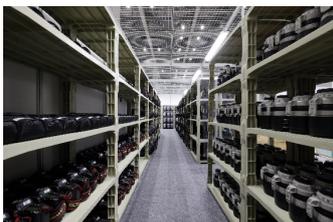


キヤノンが東京 2020 大会のメインプレスセンターに プロフォトグラファー向けのフォトサービスセンターを設置

キヤノンは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京 2020 大会）期間中、世界中の報道関係者が集まる MPC（メインプレスセンター）にフォトサービスセンターを開設し、トップアスリートが生み出す歴史的瞬間や感動の瞬間を撮影するプロフォトグラファーをサポートします。



フォトサービスセンターの外観



フォトサービスセンター内に
準備されている撮影機材



プロ向けのデジタル一眼レフカメラ
「EOS-1D X Mark III」

プロフォトグラファーの世界において、カメラメーカーには、先端技術や最高クラスの性能を備えた機材に加え、きめ細やかなサービスやサポート体制の提供などの「総合力」が求められています。

これまでキヤノンは、オリンピック・パラリンピックをはじめ、国内外のスポーツイベントの舞台裏で、カメラ・レンズのメンテナンス、技術的なサポートなどを通して、報道の現場を支えてきました。東京 2020 大会においても、長年にわたるプロサポートで蓄積してきた多くのノウハウを生かし、プロフォトグラファーのさまざまな要望に、柔軟かつ的確に対応していきます。

東京 2020 大会の MPC は、東京ビッグサイト・西ホールが拠点となり、多くの報道関係者の利用が見込まれています。キヤノンは東京 2020 大会の「ゴールドパートナー」（スチルカメラおよびデスクトップ・プリンター）として大会運営への貢献をめざし、MPC 内に今大会最大規模のフォトサービスセンターを開設します。

フォトサービスセンターでは、撮影機材のトラブルなどにより歴史的瞬間を逃すことのないよう、プロフォトグラファーの業務を止めない「ゼロ・ダウンタイム」を掲げ、スピーディーなメンテナンスサービスや修理・代替品貸与などを行うことで、プロフォトグラファーが最高の機材コンディションで撮影に臨めるようサポートします。また、プロ向けのフラッグシップカメラ「EOS-1D X Mark III」やミラーレスカメラ「EOS R5」「EOS R6」、超望遠レンズを中心に機材を備え、高い技術力と経験を持つ精鋭スタッフが会期中、プロフォトグラファーの応対にあたります。

また、撮影現場では多くのキヤノン製リモート雲台が使用されます。レンズ交換式カメラを遠隔操作し、画角やアングルを変えられるリモート制御ソリューション「ロボティックカメラシステム CR-S700R」は、フォトグラファーが立ち入れない会場の天井などから撮影可能です。

キヤノンは、歴史的瞬間や感動の瞬間を撮影するプロフォトグラファーを支えることで写真文化の振興と発展に寄与するとともに、大会の報道を通じて世界最高峰のスポーツイベントが生み出す情熱や感動を世界中の人々と共有し、オリンピック・パラリンピックのムーブメントを醸成していきます。

* フォトサービスセンターでは、感染防止策を徹底し、ご利用されるプロフォトグラファーの皆様と従事するスタッフ双方が安心して利用できる環境構築と運営を行います。

<ご参考：「L レンズ」の性能を象徴する白い鏡筒>

キヤノンの望遠・超望遠の「L レンズ」は、鏡筒に白色を採用しています。

キヤノンの鏡筒の白色は、国際的なスポーツ大会の報道取材用として開発した 1976 年 6 月発売の大口徑超望遠レンズ「FD600mm F4.5 S.S.C.」、
「FD800mm F5.6 S.S.C.」で採用したことに始まります*。

超望遠レンズは、通常のレンズに比べて大きいため日差しの影響を受けやすく、夏の炎天下などの環境下で使用されることも多いレンズです。キヤノンは、熱によるレンズ内部の光学性能の低下を抑制するため、黒よりも熱を反射させやすい白色を鏡筒に採用しました。2018 年には自社開発した遮熱塗料を採用した「EF400mm F2.8L IS III USM」、
「EF600mm F4L IS III USM」を発売するなど今も進化を続けています。

国内外のさまざまなスポーツイベントで、フォトグラファーがキヤノンのレンズを並んで構える様子が「白い砲列」と呼ばれて注目を集めるうちに、いつしか「白レンズ」の愛称とともに、鏡筒の白色はプロ向けの高性能レンズを象徴する色としてフォトグラファーの間で定着するようになりました。

* 一眼レフカメラ専用レンズとして。レンズとしては、1960 年 9 月に発売した野球の中継放送用に開発された放送用カメラ用超望遠レンズ「TV2000mm F11」で採用。



レンズ交換式カメラ用レンズで白色を初採用した
「FD800mm F5.6 S.S.C.」(1976 年 6 月発売)



スポーツイベントで並ぶ「白い砲列」

<ご参考：報道現場を支援するレンズ交換式カメラの遠隔操作を実現>

スポーツをはじめとする報道現場において、従来の撮影方法では撮影できないさまざまな視点や角度から静止画を撮影できる、カメラを遠隔操作して撮影するリモート撮影と呼ばれる撮影技術が広がりを見せています。

キヤノンは、レンズ交換式カメラ*の遠隔操作を実現する静止画撮影用のリモート制御ソリューション「ロボティックカメラシステム CR-S700R」を 2020 年 2 月に発売しました。

世界各国・地域のニーズをくみ取りながら開発した「ロボティックカメラシステム CR-S700R」は、報道現場において、プロフォトグラファーの静止画撮影を支援します。



静止画撮影用のリモート制御ソリューション
「ロボティックカメラシステム CR-S700R」

* 対応するカメラは、一眼レフカメラ「EOS-1D X Mark III」(2020 年 2 月発売)、「EOS-1D X Mark II」(2016 年 2 月発売)。対応する交換レンズは、「EF11-24mm F4L USM」(2015 年 2 月発売)、「EF16-35mm F2.8L III USM」(2016 年 10 月発売)、「EF24-70mm F2.8L II USM」(2012 年 9 月発売)、「EF70-200mm F2.8L IS III USM」(2018 年 9 月発売)、「EF70-200mm F2.8L IS II USM」(2010 年 3 月発売)、「EF24-105mm F4L IS II USM」(2016 年 10 月発売)、「EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM」(2014 年 12 月発売)。2021 年 7 月 19 日時点。